

X. 放射線科 管理指導医：上甲 剛部長

1. 研修プログラムの基本理念と特徴

臨床医にとって各疾患の診断根拠を与える方法として画像診断の各モダリティーは極めて重要である。また、我が国の死因第 1 位である癌に対する治療体系において、放射線治療が果たす役割も大きい。従って、放射線科では、臨床医にとって必要な放射線診断及び治療に関する基本的な知識を身につけ、個々の希望応じたプログラムを実施する。

2. 研修内容

当院では研修医の日常勤務の中で、診断から治療学の全てが研修可能なプログラムを作成している。研修スケジュールは下記のとおりである。

	朝	午前	午後	夕方
月	会議(月1回)	IVR	MRI	肺がんカンサーボード(月1回)
火		核医学	治療	
水		MRI	IVR	肝がんカンサーボード(月1回)
木		MRI	読影	
金		IVR	読影	

3. 経験目標（経験すべき診察法・検査・手技）

1) 放射線医学の基礎知識

- ① 放射線管理と被曝防護
- ② 放射線物理と生物学
- ③ 画像診断学（全て必須項目）
- ④ 画像診断に必要な正常解剖
- ⑤ 各診断モダリティーの基本原理
- ⑥ （単純 X 線、CT、MRI、超音波、血管造影）
- ⑦ 各検査の適応と禁忌
- ⑧ 各検査に必要な前処置と撮像技術の基本
- ⑨ 各検査の基本的な読影と明確な診断所見の記述
- ⑩ 造影剤の使用方法和副作用に関する知識
- ⑪ IVR における適応と基本手技及び患者管理
- ⑫ 核医学（SPECT、PET）
- ⑬ 放射性同意元素（RI）の物理特性と取扱いに関する基本的な知識
- ⑭ 撮像機器/撮像技術及び検査原理に関する基本的な基礎知識
- ⑮ 疾患や病態に応じた効率的な各検査の適応
- ⑯ 基本的な画像解析、正常像の理解及び異常所見の検出
- ⑰ 各検査の基本的な読影と明確な診断所見の記述
- ⑱ 放射線治療学（全て必須項目）
- ⑲ EBM に基づいた治療法の選択と放射線治療の適応
- ⑳ 標準的な放射線治療計画の立案
- ㉑ 照射法（定位照射、3 次元照射を含む）の実施
- ㉒ 射線治療に伴う急性及び慢性期障害の理解